



共同獣医学部学術セミナー

演題: 新規の遺伝性疾患であるジャック・ラッセル・テリアの遺伝性消化管ポリポーシスについて

講師: 吉寄 響子 (岐阜大学岐阜大学応用生物科学部 特別研究員)

開催日時: 1月26日(水)16:00-17:00

場所: 山口大学獣医学研究科棟4階大講義室、Webex配信

講演要旨: 血統書付きのイヌやネコはその血統維持のため、同じ品種の個体同士が交配されます。よって、遺伝性疾患はその品種を超えることなく広がり、他の品種より高頻度で発生することで認知され発見されることがしばしばです。ジャック・ラッセル・テリアではイヌでは稀とされる消化管の腺腫や腺癌が2000年代後半から増加しており、遺伝性ではないかと指摘されていました。ヒトでは、大腸に多発性の腺腫が発生する家族性大腸腺腫症(FAP)が知られています。これは、がん抑制遺伝子であるAPC遺伝子の先天的な変異が原因です。このAPC遺伝子を検索した結果、ジャック・ラッセル・テリアに発生している腺腫・腺癌が先天的遺伝子変異によって引き起こされる遺伝性疾患であることが分かりました。本疾患は、まだまだ認知されていない新規の遺伝性疾患です。まず本疾患の概要について、そして開発した遺伝子検査法や疫学調査の結果についてご紹介したいと思います。

問合せ先: 森本将弘(内線5892)